

## ◆資源・環境対策事業

### 漁協・漁業者主体の資源管理構築（ナマコ・ヒトエグサ）

水産海洋技術センター 紫波俊介

#### 1. 目的

本活動は、同地で主に漁獲されるトゲクリイロナマコを主対象として、漁協・漁業者が継続して実践できるナマコ類の漁業制限を構築し、漁業制限の代替収入としてヒトエグサ養殖を導入し、久米島沿岸水産資源の持続的利用を図る。

#### 2. 方法

下記取組を漁業者・漁協職員と共に実施した。表題のとおり漁協・漁業者自らが主体となり考え・実行に移すことが大目標であるため、それらが妨げられないよう十分に留意した。

##### (1) ヒトエグサ養殖

養殖および加工指導

##### (2) ナマコ漁業規制にかかるナマコ資源調査

漁協・アーサ養殖生産部会が永続的にナマコ資源動態調査を行える調査を目的とした。

漁獲場所（イッチャク島南西）・時間（1.5時間）・メンバー（糸数洋）を固定し、一定時間に漁獲された食用ナマコ類の個数・総重量を船上でバネばかりを用い計測した。

#### 3. 結果

##### (1) ヒトエグサ養殖

養殖については現場巡回指導を行うと共に、又吉直樹青年漁業士に現地指導を頂き、8.1tと県3位の生産量となった。

加工視察は新たに担当となった田村圭介氏とともに、恩納村漁協又吉直樹漁業士、佐敷中城漁協北中城支所所有の加工場を視察し、乾燥および冷凍加工について学んだ。佐敷中城漁協で

は乾燥加工に向かない減量を佃煮などに利用することにより、加工場周年運営向上、漁業者の収入拡大を図っていた。また、（有）水実に視察を行い、冷凍加工及び販路開拓、ヒトエグサ以外の水産加工品について意見交換を行った。

（2）ナマコ漁業規制にかかるナマコ資源調査  
漁獲個体数・漁獲量は前年度最終調査の12月3日の110個33.9kgを超えず、10月27日が33個10.3kg、12月20日が53個8.1kgと少なかった（表）  
また、12月20日の平均重量は0.153kgと小型個体が多かった。

#### 4. 考察

加工視察により、漁協受入体制が整えられ、田端部会長（青年漁業士）、仲与志指導漁業士等が中心となり生産技術も向上し、沖縄第3位の生産量に成長した。

今後は、生産者および漁協のさらなる経営・生産安定のため、色が薄い等乾燥に向かないヒトエグサも積極的に収穫する事が必要と思われる。

ナマコについては、漁獲量が落ち込んでしまったが、漁協や周辺の漁業者からは密漁している可能性は低いとのことである。環境変動による散逸・斃死や、大型個体の移動等が考えられるが、解明にはさらなる調査が必要である。

また、小潮時の調査に比べ、中潮時の方が少ない傾向が見られるため、潮と同調し、何らかの移動を行っている可能性がある。

今後、調査を重ね、結果を注視しつつ、適宜追加調査を行っていきたい。



恩納村漁協 又吉直樹青年漁業士によるアーサ現地指導



恩納村漁協アーサ洗浄機

又吉直樹青年漁業士加工場

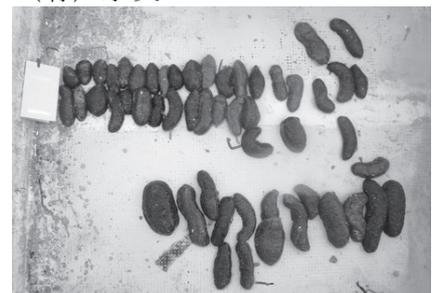


佐敷中城漁協北中城支所加工場

(有) 水実

調査年月日	潮	漁獲 個体数	漁獲量 (kg)	平均重量 (kg)
2015年1月10日	中潮	※1.1		
2015年10月2日	中潮	37	13.1	0.354
2015年12月3日	小潮	110	33.9	0.308
2016年10月27日	中潮	33	10.3	0.311
2016年12月20日	小潮	53	8.1	0.153

表 1.5時間で漁獲された商用ナマコの数量変化



12月20日に漁獲したナマコ